

G-5 技術・家庭科学習内容に対する生徒の興味(第5報)新学習内容について
石島大教育附高 道丹博子

目的 先に中学校技術・家庭科の旧学習内容に対する生徒の興味について調査したが、今回は、新学習内容に対する生徒の興味は、学習前と学習後とではどのような変化を示すかについて、一対比較法により、都市と農村の両地域について比較した。

方法 学習前は昭和49年4月～5月、学習後は昭和50年3月のそれぞれの期間に、石島県の都市と農村の中学校2校ずつ計4校の第1～第3学年の生徒(調査実数1075名)を対象に、調査用紙を配布して調査を行なった。調査用紙の質問項目は、現行の中学校技術・家庭科学習指導要領の内容を各学年共、16項目に精選し、120対の項目を作成した。

結果 第1学年は「調理実習」「ブラウス・スカートの製作」「献立作成」など都市、農村共に学習前後の興味は大で「調理熱源」「投影図の書き方」「略平面図の書き方」など興味は小であった。しかし、「木製品の製作」は都市で学習前後共興味が大であったが、「食物の栄養」は農村で学習後興味が大となり、地域差がみられた。第2学年は「調理実習」「ししゅう」「染色」など都市、農村共に学習前後の興味は大で「ミシンのはたらき」「ミシンの機械材料」「ミシンの組立」「機械要素」など興味は小であった。第3学年は、「調理実習」「ワンピースの製作」「幼児のおやつ」など都市、農村共に学習前後の興味は大で「回路図の使い方」「屋内配線」「電熱器具のしくみ」「照明器具のしくみ」など興味は小であった。第2、第3学年は学習前後の興味の大いに変化がすくなく、興味に一貫性が認められた。